

倒産集計**信用交換所京都本社**

10年4月繊維倒産

件数・負債額ともに前月比は大幅減少**▼全国▲ 発生件数=40件 負債額=77億1000万円**

2010年(平成22年)4月の全国繊維業者の倒産(負債額1000万円以上=整理・内整理含む)は40件。前月比で18件(31.0%)減少し、前年同月と同件数となった。

負債額は77億1000万円で、前月比で665億2200万円(89.6%)の大幅減少、前年同月でも41億9600万円(35.2%)の減少となった。

前月はU.F.O.(株)及び関連会社GFS(株)(2社合計負債総額528億円)などの大型倒産が発生したが、当月は負債額が10億円を超えたのは鈴木忠(株)(福島県郡山市、衣料総合卸ほか、負債額13億円)のみで、5億円を超える倒産も岡田服装(株)(島根県簸川郡、ニットウェアほか縫製、同9億2900万円)、(株)オクムラ(大阪市淀川区、寝具ほか小売、同8億円)の2社にとどまり、負債額は前月・前年比ともに大幅に減少した。

政府が後押しする家電・車などエコ減税対象となる製品販売は堅調ながら、百貨店・量販店・スーパーでは依然として衣料品を中心に苦戦が続き、低価格化競争により販売額も減少し、繊維業界にとっては厳しい環境が続いている。ただ倒産件数は、緊急保証制度や中小企業金融円滑化法の施行など政府による金融面での支援体制や、金融機関のリスク対応に支えられ、当面の資金手当てができたことを要因に低位で推移した。

しかし、インターネット通販業者の増加などに伴う購買チャンネルの分散化が進み、メディアが取り上げる日本進出の海外カジュアルチェーンなどには消費者が列をつくるものの、繊維業者が主要販売先とする百貨店・量販店などの既存販売チャンネルの集客力は今後も一層低下するものと予想されることから、売上不振に悩む企業が増加し、事業継続を断念せざるを得ない先が出てくる懸念される。

業種別では、「小売商」が16件で最も多く、次いで「紳士・婦人・子供服・被服製造卸」8件、「ニット製品・洋品雑貨製造卸」「その他」各4件、「織物製造」「織物卸」「呉服・和装製品製造卸」各2件、「染色整理・特殊加工」「寝具・インテリア製品製造卸」各1件。

原因別では、「業績ジリ貧」が31件で全体の77.5%を占め、次いで「資金力薄弱」4件、「放漫経営」「業況急変」各2件、「貸し倒れ損失」1件となった。

**▼京都▲ 発生件数=3件(前年同月3件) 負債額=3億8000万円
(前年同月3億2000万円)****▼滋賀▲ 発生件数=0件(前年同月2件) 負債額=0円
(前年同月1億円)**